

令和5年度 大阪市英語力調査 (GTEC) 結果の概要について

大阪市教育委員会

■ 大阪市英語力調査

- (1) 目的 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。
- (2) 実施テスト GTEC Core (ベネッセコーポレーションが提供する英語4技能型テスト)
- (3) 調査対象 大阪市立中学校第3学年生徒
- (4) 測定方法

技能	スコア	回答方法
聞くこと	210	マークシート
読むこと	210	
話すこと	210	タブレットによる音声録音方式
書くこと	210	記述式
計	840	

■ 調査結果

	GTEC 平均スコア					*1 CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
	リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)	TOTAL	
大阪市平均	107.7	101.3	102.2	137.9	451.8	54.3%
*2 全国平均	106.0	100.0	97.0	156.0	461.0	—

*1 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)
外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1は英検に換算すると3級程度。

*2 全国平均は、過去3年間にGTECを実施した団体の平均値

■ 結果の概要と今後の取組について

- 本調査は、令和3年度から生徒の英語4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)を測定しています。(令和元年度までは、2技能(聞くこと、読むこと)で実施。令和2年度は、コロナの影響により中止)
- 技能ごとの結果では、「聞くこと」、「読むこと」は、3年連続、全国平均を上回っており、これまで弱みであった「話すこと」についても、今年度は全国平均を5.2ポイント上回り、改善傾向が見られます。
- 生徒の話す技能が向上した要因としては、小学校からの英語教育の成果やネイティブスピーカーの有効活用等に加え、中学校の授業で、英語による言語活動を行っている教員の割合やスピーキングテストの実施回数が増えたことなどがあげられます。
- 一方、「書くこと」については、全国平均より18.1ポイント下回る結果となりました。「無回答、または意味が伝わらない」回答の割合が19.7%あり、課題が残ります。
- 4技能トータルでは、文部科学省が第4期教育振興基本計画で指標としている「CEFR A1 レベル(英検3級)相当以上の中学3年生の割合」は54.3%であり、国の目標値である50%以上を平成29年度から6回連続で達成しています。
- 今後は、さらに英語4技能の総合的な育成に取り組み、大阪市教育振興基本計画に基づき、令和7年度末までに上記割合56%以上をめざしてまいります。